

防災教育の実践と効果の検証



和歌山県田辺市立新庄中学校



新庄駅付近



新庄駅付近



大湊神社前の道

昭和南海地震のとき
の、新庄地区の津波
被害のようす

新庄公民館提供

昭和南海地震から今年で70年

今後30年で地震が起こる確率 約70%

田辺市では、

到達時間 15分

津波最大 12m

人的被害最大 約1万5千人

避難者 約4万7千人(人口約8万人)

和歌山県地震被害想定調査 防災わかやま より

平成13年に、防災への意識の向上や
周囲への啓発、地域との連携を目的に
新庄地震学スタート

- ・今年度で16年目
- ・3年生がグループに分かれ、防災学習
- ・教科と防災を関連づけた内容
- ・週1時間、総合的な学習の時間
- ・11月に地域の方をむかえて発表会

1.本校生徒の意識調査と防
災教育の効果の検証

①防災アンケート

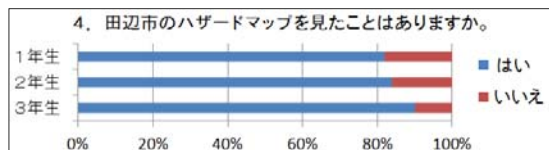
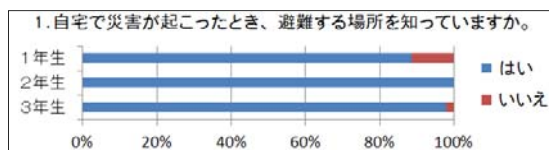
②和歌山県防災テスト

③全国学調質問紙

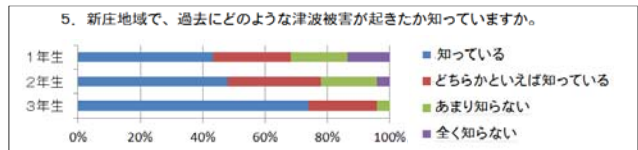
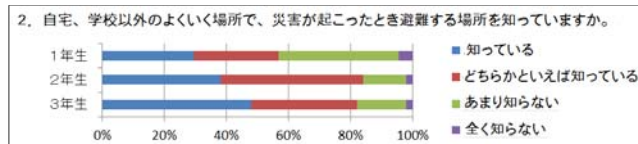
①防災アンケート

1. 自宅で災害が起こったとき、避難する場所を知っていますか。
2. 自宅、学校以外のよくいく場所で、災害が起こったとき避難する場所を知っていますか。
3. 家族と災害が起こったときの避難場所、連絡方法などを話し合ったことがありますか。
4. 田辺市のハザードマップを見たことはありますか。
5. 新庄地域で、過去にどのような津波被害が起きたか知っていますか。
6. 地震が起こるメカニズムを、他の人に説明できますか。
7. 台風や豪雨が発生する可能性があるとき、どのような対策をすればよいか知っていますか。
8. 災害が起こったとき、家族の伝言を聞いたり、自分の伝言を残すためにはどこに電話をすればよいか知っていますか。
9. 災害が起こったとき、電気やガスを使わずに調理する方法を知っていますか。
10. 家の家具は、耐震対策(固定など)をしていますか。
11. 家で、非常用持ち出し袋や食料(飲料)は備えていますか。
12. 近くの地域で災害が発生したとき、ボランティアとして参加しますか。
13. 災害が起こったとき、地域の人と連携をとることは大切だと思いますか。
14. 新庄地域のよさ(自然、文化、産業、歴史など)を、他の人に説明できますか。
15. 防災について学ぶことは、必要なことだと思いますか。

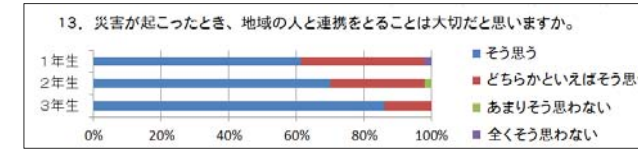
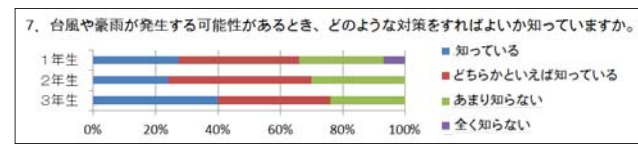
全体的に高かった項目



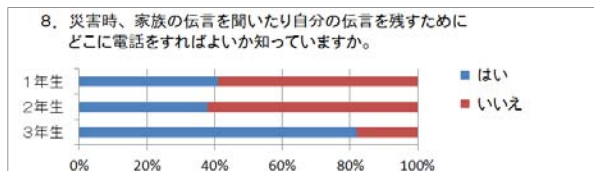
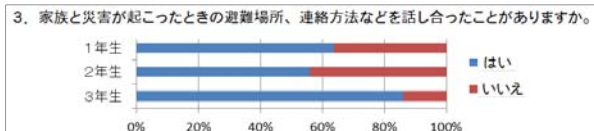
学年が上がるにつれて高くなった項目



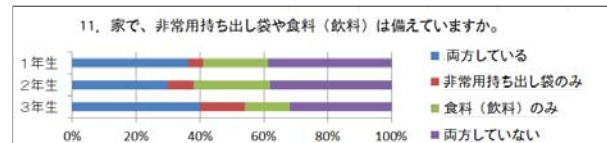
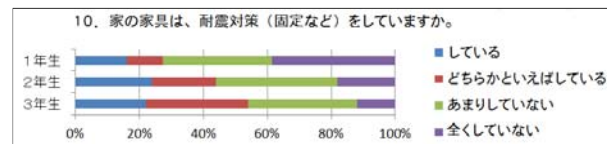
学年が上がるにつれ高くなった項目



課題がみられた項目



課題がみられた項目



②和歌山県防災テスト

- ・和歌山県教育委員会健康体育課作成
- ・県内の小中学校に配布
- ・各校で採点して防災教育に活かす
- ・全20問



防災テスト結果

平均正答率 66.9% 無回答率 9.5%

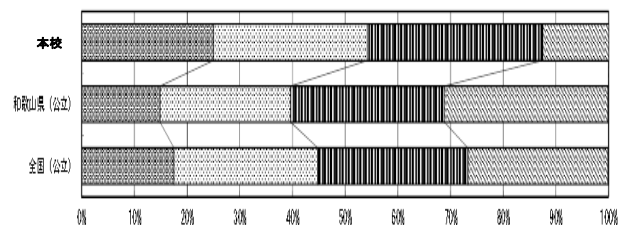
正答率が30%以下だった問題

- 「津波でんでんこ」とは、三陸地方に伝わる言葉である。どういう意味が書きなさい。
- 「津波避難3原則」とはどういうものか。3つすべてを書きなさい。
- 津波は引き潮から始まる。○か×か。 ×
- 「津波防災の日」である11月5日が国連総会本会議において採択され、「〇〇〇〇の日」という国際デーとなりました。何の日となったか書きなさい。 世界津波の日
- 土砂災害の種類は、おもに3つある。3つすべてを書きなさい。 土石流、地すべり、がけくずれ

③全国学力・学習状況調査質問紙

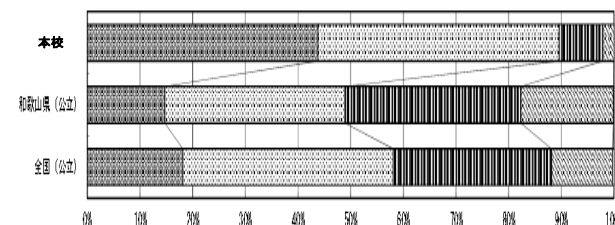
今住んでいる地域の行事に参加していますか。

01 当てはまる 02 どちらかといえば、当てはまる 03 どちらかといえば、当てはまらない 04 当てはまらない 05 その他 06 無回答



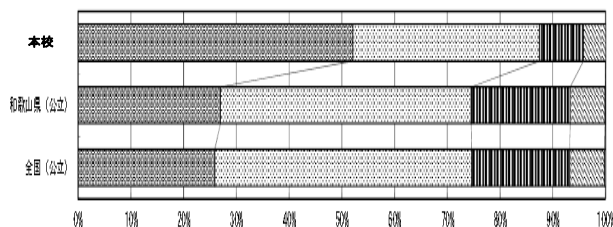
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

01 当てはまる 02 どちらかといえば、当てはまる 03 どちらかといえば、当てはまらない 04 当てはまらない 05 その他 06 無回答

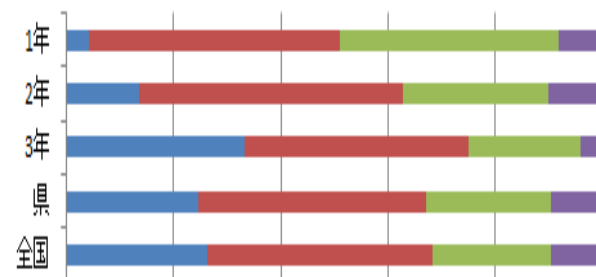


「総合的な学習の時間」で学習したことは、普段の生活や社会に出たとき役立つと思いますか。

01 当てはまる 02 どちらかといえば、当てはまる 03 どちらかといえば、当てはまらない 04 当てはまらない 05 その他 06 無回答



自分には、よいところがあると思いますか



2. 昨年の発表以降の防災教育の実践

防災教育の目的

- ・地域の**自然や恵み**を学び、時に起こる災害に対して日頃から備えることの大切さを学ぶ。
- ・**教科と関連づけて**地震や津波についての正しい知識を学習する。
- ・いざという時の**実行力を高め**、生き抜く力を育む。
- ・防災学習を通して**地域との連携**を深める。

1年生 地域学習



2年生 防災学年劇



3年生 新庄地震学

- ・定期的な避難訓練
- ・他校との交流活動
- ・教科授業で防災学習
- ・田辺市「防災教育の手引き」を活用した、3年間の計画的な防災授業

防災教育の実践①

田辺市「防災教育の手引き」

- ・市内全小中学校(小27中14)の防災担当が学期に1回集まる担当者会を実施
- ・3ブロック(沿岸部、中山間部、山間部)に分かれ、小1～中3までの指導案を作成
- ・今年4月から全市小中学校で授業実施
- ・研究授業を行い更新、改良



1年生1学期

「釜石の“奇跡”」

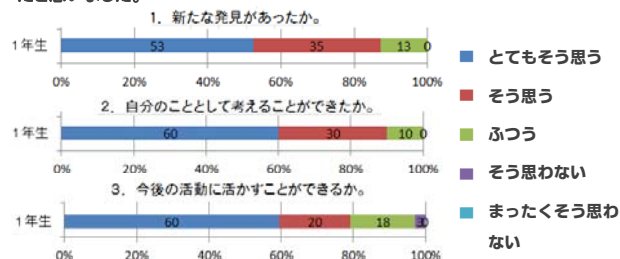
～子ども達が語る3.11～



- ・家で一人でいるとき、地震が起こり、津波警報が発表されました。家族はもうすぐ帰ってくる時間です。あなたはどのような行動をとりますか？
- ・避難三原則とは？
- ・「新庄の奇跡」を目指すためには、どうすればよいと思いますか？

生徒の感想

- 家でも倒れそうな家具がないか、もう一度確認しておこうと思います。
- すぐ逃げられるように避難グッズなどはしっかり用意しておきたいなと思いました。
- ぼくの家は海に近いので、ビッグユニーに逃げて紀南病院に逃げて、その後におばあちゃんの家に行くという話を話しました。
- 新庄の奇跡を起こすためには、一人一人が率先して自分から逃げるのが大事だと思います。



2年生1学期

「東日本大震災から学ぶ」

防災教材DVD「勇気をもって

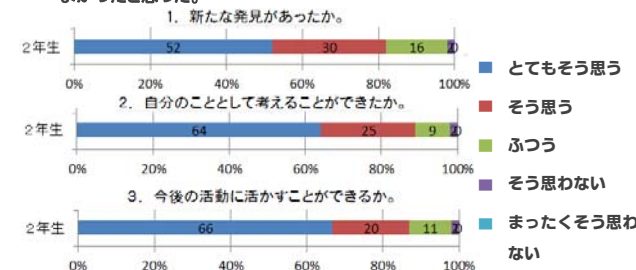
～災害を知り、いのちを守る～



- ・東日本大震災では川の上流ほど死亡率が高かった場所があったのはどうして？ → **自分は大丈夫、ここまでこない**
- ・岩手県田老地区の人々が避難訓練に参加しなくなったのはどうして？ → **大きな堤防が守ってくれる**
- ・災害後の避難所生活の実体 → **事前の備えが大切**
- ・「津波でんでんこ」を実行するためには、どうすればよい？ → **家族との信頼関係、事前の話し合い**

生徒の感想

- 家に帰ってすぐ避難グッズを用意しようと思った。
- 父や母は心配だけれど、信じてはやく逃げる。
- でんでんこを知らない人に教えてあげたいと思いました。
- 自分がリーダーになるという気持ちをもって逃げたいです。
- 家族にももっと話して津波のこわさを知ってもらおうと思った。この授業はよかったと思った。



3年生1学期

「防災フェア2011体験報告会」

中学生にできることを考える

釜石東中学校



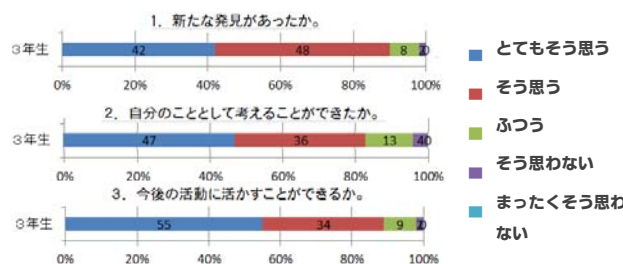
釜石東中学校の報告から、防災教育の内容、震災当時のようすを学び、自分たちは今何ができるのかを考える。

- ・EASTレスキュー・安否札・防災ボランティアスト
- ・3.11避難のようす・震災後の町、授業のようす

○想定外に対応するには？ → **普段のことを真剣に**
今、中学生の自分たちができることは何だろう？

生徒の感想

- 普段の勉強、部活動、地域との交流など、しっかりすることが大切だと思いました。
- 日頃から先生や友達の話をよく聞き、自分の役割を果たすこと想定外の災害に対応できることがわかりました。
- 安全に逃げるために、普段から地域の方との関わりを深めていけるようにしたいです。
- 地震学やこのような道徳で学ぶことが、逃げ切ることにつながるし、災害後の生活にも関係していると思いました。



防災教育の実践② 防災学年劇

「Message」

2030年10月、南海トラフ巨大地震が発生。新庄に津波がおしよせ、学校は避難所となった。父親が見つからない少年。親友とけんか別れた少女。避難所での様々なトラブル。

津波で命を失った親友が、災害用伝言ダイヤルに残していたメッセージとは。

観覧した方の感想

- ・ラストシーンに涙が出ていることに気づきました。すばらしいシナリオと生徒たちの熱演に拍手です。
- ・子どもたちの演技は心からその役になりきって胸に響く劇でした。セリフの一言一言に重みがあって涙がとまりませんでした。
- ・子ども同士のつながり、先生たちとのつながりが丸い円のように感じ、一つのを完成させた達成感のようなものがあって感動しました。
- ・中学生になると自分を表現するのが難しくなるのかと思っていましたが、私の予想を超える生徒たちのパワーを見ることができ感動しました。田辺の自然や産業を大切にしたい気持ちがひしひしと伝わってきました。
- ・見ていて涙が出てきました。それだけに訴えるものがあつたのだと思います。内容もわかりやすく現実的で素晴らしいです。
- ・すばらしい！感動しました！に尽きます。新庄の伝統文化、自然、人々の暮らしがこの文化祭に濃縮されていますね。

今年度は台風防災劇を制作中

2020年7月、新庄では地域の伝統行事「祇園祭」を翌日にひかえ、巨大台風がせまっていた。台風は勢力を増し、やがてスーパー台風に。田辺市全域に特別警報が発表され、土砂崩れ、川の氾濫、避難する人々。母親の帰りを待つ姉と弟の運命は・・・。

平成23年台風12号の被害



世界遺産
「熊野本宮大社」付近



降り始めてからの雨量が1100mmをこえ、浸水した田辺市本宮

平成23年台風12号の被害



ふどの
深層崩壊が起こった田辺市伏菟野地区

平成23年台風12号の被害



い
天然ダムが崩壊した田辺市熊野付近

防災教育の実践③ 授業で非常持ち出し品確認

事前学習プリント配布
↓
3年生全員が持参
↓
班で意見交換
↓
クラス全体でまとめ



防災教育の実践④ 関係機関との連携 地元ラジオ局と連携した地域合同避難訓練

事前指導

NHKアナウンサー伊丹さんより
ラジオ → 吸着誘導法避難
防災無線 → 指差誘導法避難



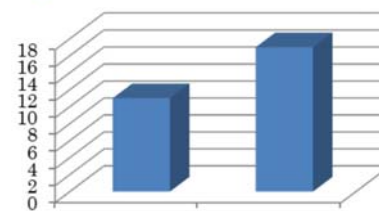
当日

本校生徒約160、地域の方約50名参加
FM「TANABE」による30分間の防災放送と避難誘導(CMなし)



防災教育の実践④ 関係機関との連携 地元ラジオ局と連携した地域合同避難訓練

■避難場所までの平均の時間



ラジオを聴きながら避難

24人 平均10.75分

ラジオを聴かずに避難

23人 平均16.77分

ラジオを聴きながら避難の方が平均で6.02分早く避難完了

防災教育の実践④ 関係機関との連携 紀南JAと防災ダンス

ぼうさい紀州うめみかソング



防災教育の実践④ 関係機関との連携

紀州博物館と共同制作

「旧新庄村 昭和南海地震の記録」



昭和南海地震から今年で70年。

当時のようすを知る地域の方に、現存している写真を見てもらいながらお話を伺い、それをもとに昭和南海地震の記録映像を制作する。

防災教育の実践④ 関係機関との連携

消防士による救急救命



止血方法、心臓マッサージ、人工呼吸などの心肺蘇生法を学ぶ



毎年2年生全員が受講し、全員が修了証をもらう

防災教育の実践⑤ 他校との交流

募金活動

平成27年5月にネパール大地震、平成28年4月に熊本地震の募金活動を、近隣の中学校にもよびかけ4校合同で行った。



防災教育の実践⑤ 他校との交流

全国防災ジュニアリーダー育成合宿に参加

27校57名の中高生が参加

平成28年1月14～17日

本校から生徒会6名が参加



兵庫県舞子高校で発表



淡路島で
さまざまなワークショップ



神戸市1.17
のつどい

防災教育の実践⑤ 他校との交流

ぼうさい交流会 in Big U

和歌山大学・J R西日本・紀南図書館・新庄共育コミュニティ
近隣の中学校7校が参加 平成28年3月19日



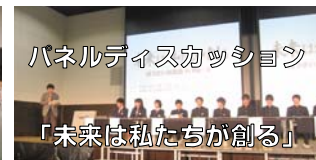
各学校ポスター展示



Message再上演



J R西日本講演



パネルディスカッション

「未来は私たちが創る」

防災教育の実践⑤ 他校との交流

ぼうさい未来学校

未来は私たちが創るⅡ

災害に強いまちづくりのために、地域へ貢献できるリーダー育成を目的として、近隣の中学校に呼びかけ防災をテーマに交流する

日程：平成28年8月25・26日

場所：新庄中学校

田辺スポーツパーク



ぼうさい未来学校

1日目

- ・アイスブレイク、自己紹介、学校紹介
- ・起震車体験
- ・かまどベンチで災害非常食
- ・避難所運営ゲーム
- ・講話①「小5の3月11日 あの日のこと」
雁部 那由多さん
震災当時、宮城県東松島市大曲小学校5年生。現在宮城県立石巻高校2年生。



あれから5年。僕は伝えたい。あの日のことを、自分の言葉で。二度と悲しみがくり返されないように。

- ・講話②「熊本地震体験ボランティア」
新庄中学校卒業生
- ・講話③「熊本の現状と支援活動」
NPO法人さくらネット 河田のどかさん

2日目

- ・ワークショップ
班ごとに、アクションプランと壁新聞作成

- ①学校でできる防災
- ②家でできる防災
- ③中学生が地域にできること
- ④中学生ができる支援、ボランティア
- ⑤将来、防災とどう関わっていくか

すべてのアクションプランをまとめ、「紀の国ぼうさい未来宣言」

田辺市近隣の中学校6校
生徒30名参加予定

防災教育の実践⑥ 今年度の新庄地震学

1	国語	防災標語
2	社会	新庄に残る石碑
3	数学	新庄地域の意識調査
4	理科	新庄中学校のライフライン調査
5	英語	外国人のための防災ガイドブック
6	美術	防災カレンダー
7	家庭	防災紙芝居、ウォールポケット
8	技術	新庄防災ラジオ物語
9	保体	新庄スーパーレスキュー隊
10	音楽	歌とダンスで防災学習

今後の予定

- 8月 ぼうさい未来学校
- 9月 小中合同避難訓練
土砂災害啓発センター社会見学(2年生)
- 10月 田辺市防災手引き授業実施
地震学出前授業(3年生)
- 11月 世界津波の日に地域合同避難訓練
文化祭・地震学発表会(20日)
- 1月 防災ジュニアリーダー育成合宿
田辺市防災手引き授業実施

未来は私たちが創るⅡ

～ぼうさい未来学校・公開セッション～

講話①

19:00～

「小5の3月11日 あの日のこと」
宮城県立石巻高等学校2年生
(東松島市大曲小学校出身)
雁部 那由多(がんべなゆた)さん

東日本大震災を経験。『16歳の語り部』(ポプラ社、2016年)として
震災を語り継ぐ。



2016年3月11日、「東日本大震災」から5年。津波で甚大な被害を受けた宮城県東松島市に、ある3人の高校生がいる。
彼らは、あの日を「ただのつらかった過去」にせず、「学び」に変えるために立ち上がった若き震災の語り部だ。
彼らはこの5年間、何を思い、何に迷い、歩んできたのか。なぜ、わざわざあのつらかった日のことを語り出さなければならなかったのか。
そこには、あの震災で生き残った、彼らなりの使命感と葛藤が存在する。

講話②

20:00～

「熊本地震ボランティア体験」
新庄中学校卒業生
森 魁斗さん(田辺市在住)
4月に発生した熊本地震でボランティアへ。
その体験を語ります。

あの日、あのとき。僕は小学校5年生だった。
体育館で体育の授業を受けていた。
学校に迫り来る津波を見た。目の前で人が流されていった。
がれきの山に遺体を見た。自宅はヘドロに埋もれていた。
行方不明の友だちは帰ってこなかった。
僕たちは震災のことを口にしないように気をつけて、何もなかったかのよう
にふるまった。
あれから5年。僕は語り伝えたい。あの日のことを、自分自身の言葉で。
二度と悲しみが繰り返されることのないように。
(「16歳の語り部」から抜粋)

講話③

20:20～

「ボランティアについて考える」(仮)
NPO法人さくらネット
河田 のどか さん
阪神淡路大震災を経験。防災を学べる高校へ進
学。防災教育を拡げる為に東奔西走する。

総括コメント

20:50～

「3つの講話を伺い、今後考えた方がいいと思う
視座」
和歌山大学 地域連携・生涯センター
講師 西川 一弘

日時 平成28年8月25日(木) 19:00～21:00

(受付18:30～ ぼうさい未来学校の説明 18:55～)

場所 田辺スポーツパーク 多目的ホール (田辺市上の山一丁目23-1-1)

参加費 無料 申込不要 直接会場へお越し下さい

対象 一般市民 新庄地域住民

主催 ぼうさい未来学校実行委員会(構成:新庄地域コミュニティ、田辺・西牟婁特別活動研究会中学校部会、
和歌山大学災害科学教育研究センター/地域連携・生涯学習センター)

後援 田辺市教育委員会、すさみ町教育委員会

問い合わせ先 田辺市立新庄中学校 0739-22-1643

趣 旨

私たちが住む和歌山県南部では、「南海トラフ巨大地震」や「東海・東南海・南海の三連動地震」「南海地震」の発生が懸念されています。そのような中で生活の中で防災や減災を考え、災害に強いまちづくりのために地域へ貢献できるリーダーの育成が求められています。田辺・西牟婁地域の中学生が集い、交流・学習活動を通して防災を学ぶ「ぼうさい未来学校 ～防災ジュニアリーダー合宿2016～」が開催されています。
今回、東日本大震災で津波を経験した講話、先ごろ発生した熊本地震でのボランティア活動、21年前に発生した阪神淡路大震災をきっかけに防災教育へ取り組む3名の青年のお話を聞く機会を得ました。本プログラムについては、是非地域の皆様と共に考えたく、公開セッションといたしました。
これからの防災・減災に必要な視点を青年から学ぶ機会としたいと思います。皆様のご参加をお待ちしております。

ぼうさい未来学校

～防災ジュニアリーダー合宿2016



1 趣 旨

生活の中の防災や減災を考え、災害に強いまちづくりのために地域に貢献できるリーダーの育成を図るとともに、
田辺西牟婁の中学校代表生徒が集い交流活動を通して学んだことを、それぞれの学校で広めていくことを目的とし
て実施します。

2 主 催 ぼうさい未来学校実行委員会

構成: 新庄地域共育コミュニティ 田辺・西牟婁特別活動研究会中学校部会
和歌山大学災害科学教育研究センター/地域連携・生涯学習センター

3 後 援

田辺市教育委員会 すさみ町教育委員会

4 参加者

田辺西牟婁中学校のうち参加を希望する中学生及び引率教員 50名
東陽中学校 高雄中学校 新庄中学校 衣笠中学校 大塔中学校 周参見中学校

5 日時・会場

日時 平成28年8月25日(木) 26日(金)

会場 田辺市立新庄中学校 体育館

(田辺市新庄町2266-2)

田辺スポーツパーク 多目的ホール 宿泊棟

(田辺市上の山一丁目23-1-1)

第1日目 8月25日 (木)	9:30 開校 活動Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ (新庄中) 昼食	10:00 移動	16:30 夕食 活動Ⅳ・Ⅴ (龍崎中・新中・大)	21:00 就寝
第2日目 8月26日 (金)	6:30 起床	7:00 朝食	8:00 活動Ⅵ・Ⅶ (龍崎中・新中・大)	11:00 全体会 閉校 (龍崎中・新中・大)

6 主な内容

1日目8月25日(木)会場:新庄中学校 一田辺スポーツパーク

10:00 開校式
10:15 プログラムⅠ(75分)
① グループ分け&自己紹介
② 各校の生徒会活動や防災活動の紹介
11:30 プログラムⅡ(120分)
A 地震体験車による地震体験(60分)
B かまどベンチで災害非常食づくり(60分)
グループで交代
13:30 プログラムⅢ(180分)
避難所運営ゲームによる防災学習
16:30 田辺スポーツパークに移動
17:00 田辺スポーツパーク到着 部屋割り、施設利用説明
18:00 夕食
19:00 プログラムⅣ(50分)

講話①「小5の3月11日 あの日のこと」

20:00 プログラムⅤ(50分)

講話②「熊本地震ボランティア体験」

講話③「ボランティアについて考える」(仮)

総括コメント 和歌山大学地域連携・生涯学習センター

西川 一弘 先生

21:00 入浴 就寝

2日目8月26日(金)会場: 田辺スポーツパーク

6:30 起床
7:00 朝食
8:00 プログラムⅥ(120分)
「今、自分たちができること」
各グループに分かれアクションプラン作成
9:00 各学校代表が「防災未来宣言」を起草
10:00 プログラムⅦ(50分)
各グループのアクションプラン・「防災未来宣言」発表
10:50 閉校式
講評 和歌山大学災害科学教育研究センター長 此松昌彦教授
閉会あいさつ
11:00 閉 会

講話①「小5の3月11日 あの日のこと」

宮城県立石巻高等学校2年生(東松島市大曲小学校出身)
雁部 那由多(がんべなゆた)さん
東日本大震災を経験。『16歳の語り部』(ポプラ社、2016年)
として震災を語り継ぐ。

講話②「熊本地震ボランティア体験」

新庄中学校卒業生 森 魁斗さん(田辺市在住)
4月に発生した熊本地震でボランティアへ。その体験を語ります。

講話③「ボランティアについて考える」(仮)

NPO法人さくらネット 河田 のどか さん
阪神淡路大震災を経験。防災を学べる高校へ進学。防災教育を拡げ
るために東奔西走する。

講話①②③は、ぼうさい未来学校・公開セッション

未来は私たちが創るⅡ

として、一般の方にも公開されます。 問い合わせ 田辺市立新庄中学校 0739-22-1643